

令和7年度第1回小金井市青少年問題協議会専門委員会 会議録

日 時 令和8年1月29日(木) 午前10時00分～午前10時55分
場 所 小金井市役所本庁舎3階 第一会議室
出席委員 6人
委員長 増田 亮 委員
委 員 塩原 真一 委員(副委員長)
黒須 よし江 委員 森 靖子 委員
八下田 友恵 委員 平井 正博 委員
欠席委員 3人
委 員 高橋 秀樹 委員 宅島 孝喜 委員 武内 渉 委員

事 務 局 児童青少年課長 平岡 美佐
児童青少年係長 清水 康之

傍 聴 者 0人

1 開会

平岡課長

本日はお忙しい中、御出席いただきまして、誠にありがとうございます。それでは令和7年度第1回小金井市青少年問題協議会専門委員会を始めさせていただきます。

私は児童青少年課長の平岡と申します。よろしくお願いいたします。

開会に先立ちまして、事務局から何点が御案内させていただきます。

本日の委員会について、武内委員、高橋委員、宅島委員から事前に欠席の御連絡をいただいております。

次に、本日の配付資料についてでございます。次第のほか、次第の下部に配付資料の一覧を記載しておりますので、御確認いただき、不足ありましたら事務局へお申し付けください。

それでは、次第に沿って進めてまいりたいと思います。本来、進行につきましては専門委員長にお願いをしているところではございますが、委員改選後の初めての専門委員会となりますので、委員長が決定するまでの間、私のほうで進行を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

なお、本委員会につきましては、会議録作成のため録音させていただいておりますので、発言の際にはお名前をおっしゃっていただいてから御発言いただきますよう、お願い申し上げます。

まず、議題に入る前に、改選後初めての委員会となりますので、委員の皆様から簡単に自己紹介をお願いしたいと思います。今、お手元の資料1を御覧いただきまして、こちらの名簿と併せて御覧いただきたいと思います。

早速ですが、黒須委員から一言よろしいですか。

黒須委員

おはようございます。小金井市子供会育成連合会のほうから、こちらに参加させていただいております、黒須といいます。どうぞよろしくお願いいたします。

塩原委員

おはようございます。緑中学校校長、塩原と申します。よろしくお願いいたします。

増田委員

おはようございます。小金井第一小学校長の増田と申します。よろしくお願いいたします。

森委員

市立小中学校PTA連合会から参りました、森と申します。よろしくお願いいたします。

八下田委員

6番の社会福祉協議会より参りました、八下田友恵と申します。私も小金井市民で、子どもが市内の小学校、中学校にそれぞれ通っております。今回の会議、専門委員に任命されて、すごくありがたく思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

平井委員

8番の東京都多摩府中保健所生活環境安全課長の平井と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

名称は府中となっておりますけれども、当保健所の所管している地域は、小金井市さんのほかに、中央線沿線ですと武蔵野市さん、三鷹市さんで、京王線沿線ですと府中市さん、調布市さん、小田急線沿線で狛江市さん、の6市ですのでこちらの会議にも参加させていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

平岡課長

よろしくお願いします。ありがとうございました。

なお、本日は欠席となっておりますが、青少年健全育成6地区連合会会長の高橋委員、それから東京保護観察所立川支部の武内委員と北多摩東地区保護司会小金井分区の宅島委員を加えた9人の構成となっております。よろしくお願いいたします。

続きまして事務局の紹介をさせていただきます。

改めまして、児童青少年課長の平岡と申します。

続いて、児童青少年課児童青少年係長の清水でございます。

清水係長

清水です。よろしくお願いいたします。

平岡課長

以上の体制で進めてまいりたいと思いますので、皆様、これからもよろしくお願いいたします申し上げます。

2 議題

平岡課長

それでは、ここから議題に入らせていただきます。

議題1、委員長及び副委員長の選出についてを議題といたします。

小金井市青少年問題協議会条例及び条例施行規則においては、専門委員長及び副委員長の選出方法に特段の定めはなく、慣例といたしまして、市立小中学校長会選出の委員から選出をさせていただいております。委員の皆様から選出方法について特段の御意見がなければ、今期もそれに倣っての選出とし、前期に引き続き、委員長の増田委員、副委員長の塩原委員を選出したいと考えております。委員の皆様の御異議がなければ、事務局案のとおり選出したいと考えておりますが、皆様、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

ありがとうございます。御異議がないようですので、委員長に増田委員、副委員長に塩原委員を選出することと決定いたします。

恐れ入りますが、増田委員、委員長席に御移動をお願いいたします。

それでは、委員長が選出されましたので、ここからは委員長に進行をお願いしたいと思います。増田委員長、よろしくお願いいたします。

増田委員長

改めまして、委員長を拝命いたしました増田と申します。身の引き締まる思いで、ここに座らせていただきました。よろしくお願いいたします。

さきほどは校名と名前しか申し上げていませんでしたので、もう少し自己紹介をさせていただきます。

小金井に関わって、学生時代も含めて恐らく20年弱でございますが、緑小の教員をやり、この3月まで小金井三小の校長を6年間やり、今は一小に異動して今日を迎えております。

教員時代から小金井を愛する、小金井にふるさと意識を持つ子どもを育てたいと思って、授業づくりをしておりまして、三小時代も、そして今も、そして緑小時代の教員時代もそんなことに取り組んできた者でございます。その御縁で、このような会に参加をさせていただいていると思いますので、皆さんの御意見を頂戴しながら進めてまいりたいと思っております。

それでは議題に移ります。

議題の(2)今期の調査テーマについて、議題とさせていただきます。

初めに事務局の説明をお願いいたします。

清水係長

事務局です。今期の青少年問題協議会における調査テーマの決定について、事務局より説明させていただきます。

本日、この専門会議においては、今期の青少年問題協議会における調査テーマを決定したいと考えております。

令和7年10月30日に開催いたしました第1回青少年問題協議会の本体会議において、今期の調査テーマについては、専門委員会を設置の上、決定することになりました。

専門委員会で調査テーマを決定するに当たり、本体会議の委員より、取り上げてもらいたいテーマがあれば、事前に事務局までお知らせいただくよう本体会議にてお願いしていたところです。

配付資料2を御覧ください。

こちらの項目1に青少年問題協議会の協議事項について記載しております。

青少年問題協議会では、青少年の指導、育成、保護及び矯正に関することを協議事項としており、表内に記載しているような内容が主な協議事項となっております。

項目2に、本体会議終了後、委員の方からいただいたテーマ案を記載しております。

結果として、委員の方から合計2件のテーマ案の意見をいただきました。

内容としましては、「地域力」と「過去取り上げたテーマの再考」の2件となっております。

なお、資料下部に、参考としまして、過去の調査テーマを記載しています。調査テーマの決定に当たっては、委員の方から事前にいただいたテーマ案及び、今の子どもたちを取り巻く状況や、皆様が関わっている団体等での状況を踏まえて、この場で御意見をいただき、本日決定したいと考えております。

最後に、今後のスケジュールについて説明させていただきます。配付資料3を御覧ください。

本日を含めまして、専門委員会は現状4回の開催を予定しております。

本日、調査テーマを決定し、その後4月から5月開催予定の第2回において調査テーマに関するアンケート調査内容を決定、その後、本体会議を開催し、アンケート調査について承認をいただく予定です。その後、アンケート調査を夏頃を実施し、10月から11月頃開催予定の第3回において、調査結果の報告と啓発内容の検討を行い、翌年1月頃、啓発内容を決定したいと考えております。その内容を改めて本体会議に報告し、年度明けの早い段階で啓発内容の周知を行いたいと考えております。

なお、スケジュールにつきましては現時点の案となりますので、進捗状況により前後することがありますので、あらかじめ御了承ください。

事務局からは以上です。

増田委員長

今日の第1回のゴールというか、まとめたいのは調査テーマについてということなんですね。どういうテーマで調査をしようかということ、方向性、少なくともキーワードはこの場で決めて、今日の会を終了したいと考えています。

それでは、委員よりいただいたテーマ案、資料2、もう一回見ていただくと、2件御意見をいただいています。地域力、小・中学校も世の中の環境も、様々変化してきている時期であるため、5期前に実施した「地域力」についてのアンケート調査を再実施したらどうですかという意見が1つと、古橋委員からは、過去取り上げたテーマをもう一度考えてみたらどうかという意見。昨年度、SNSの利用と親子との関わりみたいなことをやっているんですが、過去のテーマを再調査で深掘り調査をしたらどうですかという委員の意見をいただいていますので、この意見は踏まえての話合いにしないと、私たちの会の位置づけにつながらないのかなと思っています。

この人数なので、どこかでお話をしていただくことになります。そのことを踏まえながら聞いていただければと思います。では、黒須委員、お願いします。

黒須委員

古橋さんの提案の、過去取り上げたテーマの再考（SNSの利用と親子との関わり）という、去年も考えよう、話し合おう、SNSの正しい使い方というのでありましたけれども、オーストラリアが15歳以下をSNSの使用禁止に国として取り組んだりとか、あとフランスは、今年の秋か、9月から十五、六歳だっけ、何かそのぐらいから使用禁止にするという話が出ている中で、じゃあ、日本の子どもたち、大丈夫なのかなという、そういう不安もありまして、小さい頃から、うちの娘の子育てを見ていても、外に連れていかれない日、子どもを出せない日とか、寒かったりとか、天気悪かったりとかは、もう2歳から、しょうがないからユーチューブを見せているとか言うので、そういう中で育ってきている子どもたちが、ある日突然、もうこれ使っちゃ駄目とかいう世界に入れられちゃうというのも、また、それに対応できるのかなと、逆に心配になったりとかしちゃうんですけど、今の現状どうなんだろうという、これからどうしていったら、子どもたち、健全に育てられるのかなという、そういうところがありますので、ここをもう一回深掘りしたらどうかなと思います。

増田委員長

ありがとうございます。

では、続いてお願いします。いかがですか。平井委員。

平井委員

もう一つの提案の地域力なんですけれども、5期前はどのようなアンケートをされてらっしゃるんですか。

増田委員長

そのお答えは事務局のほうがよろしいですか。5期前はどのような調査をして、どのような取組、成果、リーフレットを作ったのかの御説明をお願いします。

平岡課長

すいません。見にくいんですけども、参考にお配りしたいと思います。

増田委員長

ありがとうございます。

平岡課長

このアンケートを実施したのは平成28年の1月で、市内の小学校2校、中学校2校の、小学校4年生、6年生、中学校1年生から3年生までを対象にアンケートが取られました。

児童は138名、保護者が130人、中学校の場合は生徒が197人、保護者が170人のアンケートになります。

地域力といっても結構幅が広いんですけども、例えば、地域の方と挨拶を交わしますかという問いであったりですとか、ボランティア活動について、地域のボラ

ンティアをしてみたいですかと子どもたちに聞いたところ、約30%の子は、したくないと答えているんですけども、それ以外の7割の子は、何かしら興味があるというふうに結果としては出ています。

地域ボランティアの参加の実績ですとか、御家族が地域ボランティアをしているのかというところで、保護者と子どもで分けて回答を求めています。

裏面をおめくりいただきますと、今度は地域活動への関わりについてというところで設問が設けられております。地域の行事に参加したことがあるかというところと、参加した地域の行事はどんな行事かとか、地域の活動をしている団体と聞いて何か思い浮かびますかといったところで聞いています。

地域の行事へ参加経験がある、たまにあると答えた割合としましては、あまり自覚がなく、子どもがイベントとして参加をしているというところがあるようでして、保護者の方と地域の活動について話し合ってみませんかというところで呼びかけをしているパンフレットのつくりになってございます。

あとは、下のほうは地域の公共施設の利用状況ですとか、地域の団体に参加させたいですかとか、一番最後に、あなたは小金井の地域は好きですかという質問になっていまして、子どもよりも、実は全世代で大人のほうが好きと答えているところがありまして、子どもの本市への愛着といえますか、もっと高められたらいいのでは、とは思ったところです。

事務局は以上です。

増田委員長

平井委員、いかがですか。

平井委員

このアンケートを行って、このパンフレットをつくって、その後、どういうアクションになったのでしょうか。

平岡課長

事務局です。こちらを配布して、地域のつながりとか地域の力というところで、このアンケート、このパンフレットを見て、もう一度、保護者と一緒に地域の参加、地域力というのを保護者自身にも考えてもらい、また、子ども自身にも、小金井の地域を親子で語り合うツールとして活用してほしいというところで、このパンフレットが生かされたとは聞いております。

中学生とか、積極的にボランティアに参加をしている子が多い傾向にはあるんですけども、ボランティアに参加していただける児童や生徒の皆様が、いろんなところのボランティアに参加しているところで、ボランティアの裾野とか活動というところは広げるのがなかなか難しいのが実情としてはあります。

増田委員長

よろしいですか。

平井委員

ありがとうございました。

増田委員長

それでは、どうぞ。

八下田委員

八下田です。

増田委員長

八下田委員、お願いします。

八下田委員

今日、ここに来るまでは、テーマ、SNSの利用と親子との関わりという古橋委員からのテーマが、今の時代にもすごく合っているかなと。先ほど黒須委員からもお話があった内容もありますし、あと、親子との関わりというところを重要視して、親子でSNSについて話しているかとか、あとは最近の子どもも取り巻く親子のニ

ユースとか、そういったことを親子で話しているかという質問をしていくようなテーマがいいかなと思ったんですけども、こちらに参加して、先ほど増田委員長からもお話ありましたが、小金井が好きで選ばれたんじゃないかというお話もあって、小金井ならではのテーマというのも大事なかなというふうに今気持ちがちょっと揺らいで、森委員からの提案があった地域力とか、5期前の、この地域活動にどう関わっているかとか、あとはボランティアも大体市内でなさることが多いと思うので、地域に特化した好きな場所があるかとか、何で好きかとか、どんなことが小金井にあとあったらいいかとか、そういった内容も小金井らしくていいのかなと。結論はないんですけど、どのテーマにしても、ちょっと小金井独自の質問が入るといいなと感じました。

以上です。

増田委員長

ありがとうございます。

お願いします。塩原委員。

塩原委員

塩原です。過去の調査テーマは、どれも意義があると思うんですね。だから、資料3の審議予定というところで、最終的には啓発内容決定の、何を市民の皆様が発信していくのかというところで、今まさに令和7、8年にとって何がいいのかなというのは、どうしても私は現場にいる人間ですから、SNSは恐らく幼児、児童と言われる子どもたちをお持ちの市民の皆様の予想を中学校は超えていて、警察と連動しています。

ただ、御存じのとおり、年齢からいって、中学生は全て被害者の方向になりますが、やはりお子様を持つ市民の方には、SNSというのは、与えて、ただそれで終わりではなくて、ものすごく子どもたちのスキルは、そもそも小学生からしてスキルは高いですから、中学生ともなると、アプリを使って、どのような方々とのような交流を持っているか、失礼ですが、保護者の方が把握できていない方が非常に多いんですね。そういうものを啓発すると、保護者と児童・生徒の対話とかにつながるのか。

当然、私ども学校とすれば、地域でのボランティアとか地域活動というのも重要視していますが、保護者の、受益者の皆様に、今何を考えていただきたいかという、中学校の校長とすると、いや、学校ではICT、SNSは、もうマストだと、必要な時代なんだ。ただ、そのマナーをもってということなんですけど、なかなか正直言って、学校とか地域だけでは制御し切れないほど進んでいるというところを、もう少し、お忙しいので、なかなか子どもがどういうふうに使っているか、詳細まで把握されていないのかもしれませんが、ということを考えていただくということもありかなと。

ただ、根本的には学校ですから、地域の中の学校、地域として、いろんなことを発信したいし、子どもたちが知識で、地域の小・中学校と交流したりボランティアしたりというのをどんどん進めたいんです。進めたいんだけど、リスクとすると、SNSはちょっと看過できないレベル。特に令和7年度に入って、どこの学校でも、かなり課題が出てきているので、生徒に関しては、そう考えてしまいがちですね。

児童は児童で、まだ増田先生にお聞きしなきゃ分からないところもあるんですけど

ど、そんな感じです。

増田委員長

ありがとうございました。

昨年度、もうSNSの利用と親子との関わり、それをまとめたときは、私は委員ではなかったんですけど、この資料って、皆さんにお渡ししないと議論にならないと思うんです。

昨年度は、今、塩原委員がおっしゃったようなことを、ある意味、ストレートに取り上げて、この委員会ですらまとめたということでしょうか。

昨年度のことはお話ししていますか。

平岡課長

はい。

増田委員長

そうすると、これをまとめた、そのポイントとかを加えてお話ししていただけますか。

事務局、お願いします。

平岡課長

事務局です。昨年度、こちらのSNSの正しい使い方というところで、黒須委員にもこちらのパンフレット作成には御尽力いただきまして、ありがとうございます。

こちらは委員の皆様と、どういうテーマで、何を訴えたいかというところを大変御議論いただきまして、例えばInstagramですとか、LINEですとか、YouTubeですとか、実は年齢制限があることを、保護者の方って知っているのかというところからお話が出まして、アンケートの実態を最初に紹介した後に、SNSを正しく使うためにというところで、先ほど塩原委員がまさに御指摘をいただいたとおり、保護者と一緒に、今何をしなければならないのかというところを、児童・生徒と保護者も分かってほしいということで、改めてこのポイントを書かせていただくというところで作りました。

また、相談先を書かせていただきまして、こういうところでも相談ができるよというところで呼びかけをさせていただきました。

増田委員長

ありがとうございます。

この昨年度のポイントとしては、子どもへの、または保護者への呼びかけがあるということですね。こんなことやりましょう、気にしましょうというところが、やっぱり一つのポイントなのかなと思います。

学校のことを申し上げますと、困ったり、悩んだりしたことがあった時は、信頼できる大人に相談しましょうというのを、最初に言うんですよ。それがおうちの人だったり、学校の先生だったり、スクールカウンセラーだったり。それでもなかなか相談しにくいことがあるよね、そのときには相談先があるよというのを大体毎学期、数か月置きに、相談先一覧のペーパーを配っている、これが学校の実態です。

それでは、お待たせしました。森委員、お願いいたします。御意見をお願いします。

森委員

森です。私も初めてで、こちらの会議に参加させていただいています。なので、地域力って数年前にされたことも、どういうことをされたのかも全然分からないまま、自分の中で中学生の娘と息子がいるので、小学校までは、ある程度、親との対話は結構あったんですけど、中学になると時間がなくなるのと、個人の部屋に行ってしまうことがありまして、あまり会話が、本人がしゃべりたいときは来るんですけど、それ以外、こっちが聞きたいときにはいないというのはうちの実態なんです

けど、多分、周りのお母さんたち聞いても、やっぱり思春期ということで、あまり会話がなくなってきている。

ただ、うちの子に関しては、地域の方々とよくお話を、挨拶したりとか、知り合いが多いので、その方々との会話はよくするようで、ちゃんと挨拶してくれたよとか、こういうことを話してくれたよというのを又聞きの状態になっている状態もあるんですけど、あ、そうなんですって言いながら、そういうので、すごく地域の方々に助けていただいているので、地域力ってすごくいいかなと。

思春期の子って、どうしても親とか、あまり話してくれなくなる時期に、SNSとか、そっち方面に行きがちなのも分かるんですけど、やっぱり地域の方々とも、そうやって対面しながら、お話ししたりとかいうのがあると、本当に困ったときに、親にも言いづらいなというときとか、そういうSNS上で言えるというか、相談する。親は関与しないところで話せるような方といったら、地域の方が間に入ってもらおうというか、そういうのがいいのかなとちょっと思ったので、ここのテーマにさせていただいて、どんな感じかも全然分からないのであれなんですけど、すみません。全然まとめられてなくて。

増田委員長

いえいえ。ありがとうございます。

やはりこの委員のテーマにポイントで御意見いただいていますので、地域力のこととSNSのことと、両者御意見いただいているんですけど、もう少し皆さんからお話をいただければと思いますけど、どうですか。

委員長の増田です。冒頭の挨拶の中で、小金井の好きな子どもを育てたいとずっと思っているのは、自分がいて、家族がいて、地域の人がいて、小金井市があって、東京都があって、国があって、世界があるという構造の中で、自分もそういう身近な地域の小金井に愛着を持っているということは極めて大事じゃないかなと自分は思っていて、この5期前の調査の、あなたは小金井の地域が好きですかとって、はいという子が52%。これは、少ないですね。

増田委員長

私の前任校、三小、また今の一小は、これを超える数字が出てますので、やっぱりそういう働きかけをすれば応えてくれる子どもたちがいるというのも小金井の実態だと思います。私はそういった意味では、こういう地域をもう一回見直そうということも一つの方法かなということだと考えます。

先ほど、塩原委員から、小学校のSNSの実態というお話があったんですけど、つい、SNSでお友達の悪口を書いってしまったとします。そこは小学生ですから、書かれた内容を読んで、先生は、だいたい誰が書いたかが分かるんですよ。問題が起きるたびに、個別の指導を繰り返している実態はあります。

校長として悩んでいるのは、実は小金井市小・中学校、教育委員会の皆様に頑張ってもらっていて、12月にタブレットが全台入替えになったんですよ。言い方を替えると、子どもたちは、今、新品を使っています。これだけの思いを込めて子どもたちに配布していただいているタブレットですから、活用しないという選択はないです。ですから、どうすれば効果的に活用できるかというところが、もう何年も、コロナのときから、タブレットを配布していただいてから、それぞれの小・中学校の授業で有効に使える部分では有効に使っていかうということで、タブレットはも

うどンドン授業の中に入ってきています。

昨日、緑中学校の研究発表会だったんです。中学校でも小学校以上に、子どもたちがタブレットを使いながら議論し、話し合うという授業がどのクラスでも展開されていました。それはもうツールとしてタブレットが使われている。

それに付随して、当然、SNSとかいうことも、有効に使うという部分と、インターネットの光と陰というのでしょうか、光、つまり、便利な部分はあるけれども、その一方で、陰の部分もあるよということを、両者教えていけないといけないというのが僕の考えで、今後、タブレットを使わなくなる世の中は恐らく来ないですよ。積極的に使う方向に進むときに、僕ら学校教育は何をすればいいかというのが悩みです。

塩原委員、中学校での活用はどうですか。中学校のタブレットの活用、またはSNSについては。

塩原委員

活用してますよ。

増田委員長

各教室で使っていた昨日のことでお話しされることはありますか。

塩原委員

タブレットに、クロームブックに関しての、当然、本校は市内で一番生徒数の多い中学校ですから、いろいろたずらというか、してはならないことも起きていますが、おおむねよき活用をしてくれています。

これを見させていただくと、去年これを市民の皆様に発出しているわけですから、これを去年出して、また次に何を出すのかということ、非常にまたアンケートを基にするんですよ。中学校2年生のアンケートが、これは本音かどうか。私、100%だと思えますよ。活用してない子はいないと思う。学校のクロームブックも含めれば。だからアンケートを基にして、皆さんにということであれば、そういった意味では、地域力のほうが効果的と言っては失礼ですけども、より具現化されたものが出せるんじゃないかな。

私もどうしても生活指導担当なので、SNSでいえば、例えばデジポリスで衛星電話は全部カットしてほしいんですよ。私もデジポリスというアプリが入っています。警察がつくっているんです。だからプラス08とか、衛星絡みの番号から、私のスマホには電話来ません。無料です。こういうのも子どもに周知したいんです。私は、警察関係者ではありませんが。

というような、何かこうすると、もっとブロックできますよなんていうことはありますが、ただ、アンケートを基に、皆さんに親子で対話として考えていただくということになると、森委員や増田委員長が言っていたように、地域の中ね。やはり地域の一員としてというのは、これは防災も考えなきゃいけませんし、特に中学生なんていうのは、防災においては地域の力だと思います。大人も大学生も高校生も、ほとんど昼間は小金井にいないと。小・中学生がまさに地域の働き手なんじゃないかというようなところも踏まえて、急に話を変えて申し訳ありませんが、地域力のほうが提案しやすいんじゃないかなと私は思いました。

増田委員長

ありがとうございます。

冒頭、最初のほうで、黒須委員からは、ぜひSNSというようなお話が出ましたけれども、今、お話伺って、どうですか。

黒須委員

テーマとは別で現状をお聞きしたいなと思ったのは、今の6年生が1年生のときからコロナがはやってみたい、それでタブレット、GIGAスクール構想が始まってみたい感じで、それで人との、なるべく関わらないようにという、会話をしないようにとか、何かそういう時代に育った子たちが6年生になって、その子たちって、昔の子と比べて、そんなタブレットがどんどん入ってきて、活用するようになって、板書の時間を省いて、それで検索する時間に使いましょうみたいな感じの中で育ってきた子どもたちって、昔、ちょっと前の子どもたちと変わるところってあるのかなと思ったり。先生目から見て、現場はどうなんだろうという、そういうふうに思ったりするんですけど。

増田委員長

それは私しか答えられないと思います。増田です。

確かにコロナのときに、GIGAスクール構想で全国一斉に入ったときには、当時は会話をしない、大きな声を出さない、給食も黙って食べましょうと、こういう中でのコミュニケーションツールの一つとしてのタブレットが配られたという背景も恐らくあったのかなと思うんです。

ただ、やっぱり教育に関わる者として、当時の子どもたちを見ていて、これはどうなんだと思ったのは、目の前の子どもたちと対話をせずに、いわゆるチャットで「どう思う？」とかやりとりをしていました。遠くにいる人とのやりとりでは、それは当然必要なんですけど、教室の中で、そういうやり取りはどうかと感じていました。そういうやり取りの方法があるよということ为例として教えることは大事だと思うんですけど、本当の議論というのは顔と顔を見合わせて議論をすることが大事だと思うので、コロナの時期はとても苦しかったです。

今はタブレットをどう使っているかという、言葉が発しないための代替りのツールではなくて、さらに議論を深めるためのツール、みんなの意見をそれぞれが打ち込んで、いっせいのせで、一瞬で見ることができるとか、アンケートアプリを使えば、私はどっちの意見ですって、いっせいのせとやると、すぐ、結果を見える化できるとか、つまり子どもたちの対話を活発にするための一つの道具として使っています。ですから、使い方の視点は変わってきていますし、コロナ、つまり感染症対策を第一にするよりも、今、子どもたちの学びを深めるためにどうするかという使い方になっています。

ただ、やっぱりコロナの時期は、コロナの時期にお話をできるだけしないという指導を徹底すればするほど、自分の意見を表出するのが苦手なお子さんは増えたと思います。あと、集団行動を苦手とするお子さん。だって、そういう集団行動させないわけですから、一堂に会さないわけですから、ある意味仕方ありません。そういう部分はあるけれども、コロナが明けて数年たち、そこは一つ乗り越えた感があります。

コロナの時期に小学校だった子が中学校に行ってますが、どうですか。また学校関係の話で、皆さんに戻しますので、もう少し中学校、コロナのときと今とどうですか。

塩原委員

今度4月に入学される方が、多分コロナのとき、小1だったんじゃない？

増田委員長

そうです。1年生の入学式のときが臨時休校だった子たちです。新中1です。

塩原委員 今の中3、中2、中1、そして、まだお会いしていない小6の方、お会いしていないから比較できないんですけど、現在の中2、誕生日が来ていれば14歳ですね。本校ですよ。全部見ているわけじゃないですよ。圧倒的に幼くなりました。

増田委員長 それは小学校でもあります。

塩原委員 特に男子ですね。関わり方、振る舞いが、中3、高1とは全く違うかなと。

ただ、これは小金井の特色なのか分からないですけど、最近、学校保健委員会でやりましたが、緑中の女子は、3年も2年も1年も、全国平均に比べて身長が高いんです。大きい子が多い。女子は大きい子、男子は小さい子が多い。これからがーっとくるんですけど。私は180ですけど、下手すると、こちら辺にいと分からなかったりする。

だから、小学校1、2年のときって大事なんですよ。私、小学校の教員じゃないので分からないですけど。

増田委員長 極めて大事です。

塩原委員 もしかして、最も大事な時期なんですかね。生活習慣とか、学習習慣。

増田委員長 はい、そうです。

塩原委員 人との関わりとか。そこが少し、やっぱりコロナで阻害されていますから、ちょっと違うかなと思う。だから6年生は、まだお会いしていませんが、その傾向が続くのかなと想像はしています。

あと、運動能力は3年が一番高いです。徐々に下がります。水泳は3年はほぼ泳げます。1年生はかなり泳げません。目標も夏季のプール教室で3年間体育科に言っているのは、3年間で泳げるようになろうねという目標。徐々に、シフトして。いろいろな御配慮が小学校のときにあったと思いますし、まさに近年、暑いですしね。異様な暑さだったりするものですから。

コロナの影響は無視はできませんが、ICTは、増田先生おっしゃるように、コミュニケーションツールの一つとして活用をうまくできているんじゃないかなと。少なくとも小6の方は、想像ですけど、中1も、数十年前の中学生よりははるかにコミュニケーション能力はあります。と思います。それはもう小学校のおかげだなと。

増田委員長 それでは、学校からちょっと離れますね。

今の話だと、やっぱり地域力、地域のことをやったらどうかと。塩原委員は、アンケートを取るのであれば、そちらのほうの方がやりやすいんじゃないかといういただきました。いかがですか、皆さん。どうですか。

あとは保健所として、コロナが明けてみて、お話しできる部分があれば、どうぞ。

平井委員 多摩府中保健所の平井です。最近新聞等では、コロナという言葉はもう今、聞くことが少なくなりましたが、ただ、決してなくなったわけではなく、現在も発症して入院等されている方々はいらっしゃいますので油断はできませんが、取りあえずは落ち着いているのかなというところでは。

テーマですけども、やっぱり昨年と同じもの、似たようなものを連続してやるよりは、過去のもので、少し趣向を変えたほうがいいのかと思います。アンケートを取って、結果が出て、それをどうアクションにつなげていくか。例えば前回

ですと、ボランティア活動に興味があるという子が多いのであれば、何か市としてボランティアの体験講座みたいなのをやるとかいうところまでつなげていけるのであれば、よりいいのかなと。そういう、アンケートの結果を踏まえたその後を想定して、アンケートの項目を考えると、その辺、工夫をする必要があるのかなとは思います。

増田委員長 ありがとうございます。いかがですか。

ハ下田委員。

ハ下田委員 ハ下田です。私もテーマは地域力がいいと、今思っています。

5期前も拝見しまして、私は今、社会福祉協議会のボランティアセンターに所属してまして、まさにこれやってほしいと、大きい声で言えないけど、思っています。

去年のように、困ったときの相談先みたいな形で、今、平井委員もおっしゃったみたいに、このアンケートの下に、ボランティアセンターで夏の体験ボランティアを、小・中学生、もちろん大人もですけど、夏休み向けにやっておりますので、この配布が多分秋以降になってしまうかと思うんですが、夏の体験ボランティア、社協のほうで窓口でやっていますよという案内を載せていただけると、興味ある方が、そこにつながるかなと思いますし、夏以外でも常時、ボランティアセンターでボランティアしたいとか、ボランティアに来てほしいという相談が来ておりますので、おつなぎすることできますので、ぜひ、内容はこれから精査していくと思うんですが、この方向でお願いしたいというか、やったらすごくいいんじゃないかなと。

S N Sの陰の部分で、誰に相談していいかわからない、信頼できる大人に相談しましょうと伝えているということなんですけど、じゃあ、信頼できる大人って、つながっているのかなというときに、ボランティア活動とか地域活動と関わりがある子どもであれば、親じゃなくて、先生じゃなくて、違う地域のおじさん、おばさんがいるんじゃないかなと。森さんのお子さんもそうだったことだったので、やっぱりS N Sの闇の部分の解消方法の一つにも、地域活動ってすごくなると実感していますので。

ボランティアした子どもたちに去年感想聞いたんですけど、いつも学校と部活と塾と、行って帰ってきて、話す大人は親か学校の先生か塾の先生という中で、ボランティア先に行って、緊張して行くんだけど、すごく褒められて、ありがとうと言われる経験って、子どもにとってふだなくて、それが何かのきっかけで、いい方向に行くことが多いので、ボランティアを進めるという流れの質問になるのかなと思いました。

以上です。

増田委員長 ありがとうございます。

いかがですか。先ほどの話に戻りますけど、冒頭でインターネットのことを話していましたけど、今、地域力のことで、何かちょっと話が出ました。いかがでしょう。

黒須委員 地域力、本当に森さんがおっしゃっていたように、地域の人に助言を求めるというか、そういう関係ができるというのがすばらしいことだと思って、地域力でいい

かなと思うのと、あと、防災関係も話も出ましたけれども、やっぱり大事な人材に、中学生とか、特になっていきますので、そういう意味でもいいかなと改めて思いました。

増田委員長 ちなみに子供会というのは、まさにボランティアで、地域の信頼できる大人の一人だと思うんですけど、そういう関わりを求めてくるお子さんっていらっしゃるんですか。

黒須委員 私のところには直接来る子はあまりいないんですけど、でも、私としては、何か関わっていたいと思って、毎月、資源回収とか子供会でして、資源回収の後、すぐそばの公園清掃も一緒にやったりとか、何かそういう感じで、なるべくそこで子どもたちと話すようにはしているんですけど、でも、相談される子どもなんか……。

ただ、緑中のカフェを見ていると、そうすると代表のコバヤシさんとかは、すごく子どもたちが会いに来る。話を聞いてほしいというか、相談に来るみたいな感じで、子どもたち、今日いないのみたいな感じのときもあったりするから、中学生にとって、そういう大人、親以外で自分のことを聞いてもらえる大人がいるってすごいなと思いましたね。そんな感じで、地域力、大事だと思います。

増田委員長 ありがとうございます。

防災ということで、今ちょっとお話しいただきながら、防災だけでなく、安全もあるかなと思いました。今、不審者の情報が、警視庁から、また小金井市教育委員会から流れてくればくるほど不安感が増大していて、子どものセーフティ教室などを通して、「知らない人は悪い人、怖い人」という、そういう位置づけになりつつあるんです。特に小学校では。だから、知らない人がこちらを見ていたというだけで、もう不審者扱いで、「校長先生！へんな人がいる！」と言って来るのが現状です。スマホを出して、何か道端でちょこちょこやっている人がいれば、「盗撮している人がいる！」ってすぐ来るのが現状なんですね。

逆に言うと、地域に挨拶できる人が1人でも増えていることが、自分の身を守るという視点もあると思うんです。そういった意味でも、防災だけではなく、自分の安全、地域安全を考えたときにも、地域の人たちが見守っている、知らない人は全員怖い人じゃない、悲しいけど、ごくごく一部に悪い人はいるけどという話を私は子どもたちにしているんですよ。

ほぼほぼ地域の人、見守っている人は、みんなの応援団だし味方だよというふうにしていかないと、本当に「知らない人は怖い人」というように子どもたちに思わせてしまうことになる。私たちも避難訓練で不審者対応をやっていますので、不安感を増大させちゃっている可能性はありますが、そういう視点も地域にはあるかなと思いました。今、議論に出ていなかったのも、あえて触れさせていただきました。

今日は方向性、キーワードを考えるということが第1回の狙いということですので、それでは森委員、何か一言あればいただいた上で、地域のほうでよろしいでしょうか。森委員、どうですか。今の話でまとめていきたいと考えておりますが。

突然すいません。了解ですとか言っていただければ、全員一致になりますので。

森委員 はい。よろしくお願いします。

増田委員長 御自身の御意見も述べていただきたい。

- 森委員 そうですね。八下田委員さんからも出たように、SNSで心配事とかもあったをちょっとほかの方に御相談できたりという、挨拶できたり、そういう形の方向性のものとかができればいいかなと思っていますのでよろしくお願いします。
- 増田委員長 ありがとうございます。
- それでは全員一致でということで、地域力、5期前のアンケート項目と同じにするのか、変えていくのかということは第2回の議論にしていきたいと思っていますので、本日は地域力をキーワードに、このリーフレットの調査アンケートを進めていくというまとめにさせていただきます。
- それでは、地域力で方向性を決めますということで御了解いただいたということで、ありがとうございました。
- それでは、事務局から何かございますか。
- 清水係長 それでは、今期のテーマに続きましては、増田委員長でまとめていただいたとおり、地域力というところで事務局で進めていきたいと思います。
- 実際にこの後、アンケート調査を前回と同じような形で、お子様と保護者のもので両方取ったほうがいいかなと思いますので、その調査の内容の案を事務局のほうでまず検討させていただきまして、次回専門委員会のときに、調査内容等、御議論いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。
- 事務局からは以上です。
- 増田委員長 ありがとうございました。それでは、議題（2）については以上になります。
- それでは、議題（3）その他として、事務局から何かありますか。
- 清水係長 事務局です。次回の専門委員会の日程につきましては、先ほど配付資料の御案内をさせていただいた資料3のスケジュールのとおり、4月から5月頃、開催を予定しております。日程等、詳細が決まりましたら改めて御連絡をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。
- 事務局からは以上です。
- 増田委員長 ありがとうございました。
- それでは、委員の皆様から、ほかに御発言がありますでしょうか。
- ないようですので、以上をもちまして、令和7年度第1回小金井市青少年問題協議会専門委員会を閉会いたします。ありがとうございました。